

週日の説教

金 大烈 神父 2010年6月16日(水)

《福音的な生き方・それは「美しさ」》

主の平和

皆様、民主主義、共産主義、色々な主義がありますが、いわゆるイデオロギーというものがありますが、私達の生き方の主義は何でしょうか。それは**福音主義**、もっと易しく説明しますと**イエス主義**です。ではこのイエス主義とはどういうことでしょうか。**イエス様**の御言葉に相応しい生き方をして、そして、色々な目的、夢、それを育てることです。

結局、イエス様のおっしゃった内容は「福音的な生き方をしなさい」と言うことです。福音的な基準は何かと言いますとそれは「美しさ」だと思います。その「美しさ」があれば、それは福音的な生き方だと私は申し上げて来ました。私は今日の福音(マタイ 6・1-6、16-18)を読んでこんなことを思い出しました。“振る舞いとかが、心がけが、どんなに素晴らしく見えても、見た目がよくても、そこに美しさがなかったらそれは福音的ではない”と、子供の頃から考えて来たことを覚えています。神様が自分にこういうことを個人的に悟らせて下さったのでしょ。私の熱望は「美しく生きたい、美しい生き方を自分のものにしたい。」そう思って来ました。そういう心が子供の頃からずっと持ち続けて来た夢なのです。

結局、今日の福音を読んでイエス様のおっしゃった様な生き方をする人々を見たら、やっぱり信仰を持っている、持っていないにかかわらず美しさを感じます。そして綺麗な生き方する人は、貧しさの中でも、病気の中でも、いわゆる環境的に不足が多く恵まれなくても、人々が見せてくれるあの美しい生き方、それを見たらやっぱり心が打たれます。

皆様、哲学という学問がありますよね。その哲学は色々な分野に分けられますが、その中で一番上に立っている分野と言われるのが形而上学です。易しく言いますと形が無い学問、形の上の学問です。見えるものではなくて見えないものを現し示すことなので、それを形而上学と言います。その中でも一つの分野があります。美しいの「美」と学問の「学」で「美学」と言います。この「美学」はただ芸術的な色々な美しさを求める学問ではありません。それは、あらゆるものに関わっている美しさの本質は何だろうか、その形はどういうものだろうか。それらに取り組む学問を「美学」と言います。何故、哲学者達が、最後の段階で「美学」という学問を強調しているのでしょうか。それは信仰を持っている、持っていないかの問題ではなくて、人間は無意識的に美しさを熱望しているところがあるからだと思います。

皆様をお願いしたいことは、私達の関わり、生き方、全てのことは私達が努力をすれば、求めようとすればそれが出来ます。今日の福音、実際に常識的に考えてもイエス様の御言葉は正しいです。イエス様がおっしゃらなくても神様からの一つの賜物、私達が持っている良心という感覚、その感覚で

みようとすれば、何が美しいか何が汚いかすぐに分かります。言葉の問題、文化の問題ではありません。

さあ皆さん、もう一度考えて見ましょう。イエス主義、福音主義はそんなに難しいことではありません。これからもう一回、どうにか外面的なことに縛られずに、本当に内面を豊かにすることをしましょう。そして、その豊かさによって周りの人々をも豊かにすることが出来ると思います。ちょっとお腹が空いても心が満たされているその様な生き方を求めましょう。

ありがとうございました。